

私
っ
て
な
に
？
世
界
っ
て
な
に
？
永
遠
の
間
い
へ
の
旅
に
出
る
学
校



特集

世界とつながるシュタイナー学園

シュタイナー学園

こばなし

「あるある小断」1年・4年編

FUJINO STEINER COLUMN



特集 世界とつながる シュタイナー学園

1年生からの外国語教育と、
子どもの可能性をひろげる交換留学

座談会

田村正美先生

(7年生担任・英語専科担当教員)

廣田聖子先生

(10年生クラスアドバイザー・英語専科担当教員)

馬場愛子先生

(初等部中国語専科担当教員)

ライター / 木村未来 イラスト / 内田松里

世界に1000校以上あるシュタイナー
学校のネットワークを活かし、高等部
では交換留学を行っています。
今回はシュタイナー学園で外国語を
教える教員に、外国語の学び方や交換
留学の仕組み、それらが子どものどん
な力を育てているのかについて語っ
ていただきました。

赤ちゃんが言葉を学ぶよう
に、初等部の外国語の授業

馬場…シュタイナー学園では現在、1年生から英語と中国語の授業があります。2つの外国語を学ぶことにはどんな意味があるのでしょうか？

田村…1・2年生ぐらいの子どもはまだまだ模倣する力が強い時期です。先生の言うこと、動きや歌、発音を全てそのまま真似できる。この時期から外国語に触れることで、赤ちゃんが言葉を学ぶような感じで外国語に親しんでいると思います。

馬場…遊ぶような感覚で「体験」として学べるんですね。中国語では4年生ぐらいからそれまで唱えていた歌や詩を漢字で見せ始めますが、英語では文字はいつから扱いますか？

廣田…3年生くらいからアルファベットを習います。それまで親しんできた音と文字の形がイメージをともなうて学べるようになっていきます。

田村…例えば物語を語りながら絵を見せ、王様(King)の剣

の形からKの形が現れると子どもたちは新鮮に喜びます。1年生でひらがなを学んだのと同じ方法ですが、3年生はまだイマジネーションやファンタジーの力を借りて音から文字につながる体験ができる年齢です。

廣田…4年生ぐらいから先生の言った単語をアルファベットで表すゲームや、英語の劇を行います。一人ひとりが全員のセリフを最初から最後まで全部覚えてしまします。普段の生活でも、劇の中と同じ状況を見つけるとその場面で言うセリフが思わず口から出てくる。文法もまだ知りませんし、言葉の意味もどこまでのみこめているかわかりません。でも劇は楽しい。その楽しさが後の文法の学びにもつながります。

体にしみこんだものから文法を学ぶ、中等部の学びへ

馬場…中等部ではどのように文法を学ぶのですか？

廣田…動詞の活用などは初等部のころから唱えています。

田村…例えばゲームですね。現

在進行形のフレーズを何度も使うようなゲームを2・3年生でやります。ゲームで唱えたことを子どもは覚えていて、中等部で文法として教わったときに「あれだ!」と結びつけることができます。

廣田…7・8年生(中学1・2年生)では文法をしつかりやります。うまく理解できない子どもにはサポートが必要です。そんなとき、テストをすると必ずよくできる子がいるんですね。よくできる子とまだ理解できていない子と同じグループにしてテストの直しをすると、子ども同士とても上手に教え合います。大人は文法でつまづくポイントを忘れてしまっているけれど、子どもはどことが難しくてもうしたら理解できるかよく覚えている。だから子ども同士の教え合いはすごく成長します。

馬場…できている部分とできていない部分がわかる、自分の成長を確認するという意味でテストをうまく使うのですね。

廣田…わからなかったところがわかるようになると「先生、同じテストもう一回やってください

い! 今度はできるから!」と言われます(笑)。

田村…あえて同じテストをやったりしますね。できるようになったことを褒める機会になります。

廣田…そして8年生では現代英語が使われている英語劇を行います。必要な文法事項がセリフの中に入っている。劇で覚えたセリフを使うと文法もすんなりと理解できます。

成長に即してより知的に、世界を広げる高等部の英語

馬場…高等部では授業に変化はありませんか？

廣田…高等部になると子どもの発達に沿って学びも知的になっていきます。例えば、9年生

(中学3年生)の英語では「伝記」を扱います。偉人に限らず何かを突き詰めてやり遂げた人のことを学びます。まず教員がひとりの人物の物語を語って聞かせます。ひと通り文法も教わっていますし、難しい単語は使わないので全て英語でもわかります。いきなり英語で文章を読



4年生の中国語のノート

もたが受け取る。授業の内容としては読解だけれど、先生が語って聞かせるのは、小さなころから先生のお話(イソップ童話などの素話)を聴いていたこととつながっていますね。

廣田…外国語ではこの「伝える力」をつけてほしいと思っています。また、伝記を学んでみると、すごい人ほど大体15歳くらいまでに一度は挫折や試練を味わっている。人生にはいろいろあるんだ、いろいろあっているんだ、ということを感じられるのもよい点です。

馬場…思春期の子どもに必要な学びですね。

田村…外国語の授業でも他の授業同様、子どもの成長にとって何が必要か、その時期の子どもには何が栄養になるのか、ということを大切にしています。12年生になると英語のスピーチもレベルが高く、

伝えたい内容も社会的なテーマなど多様です。シュタイナー学園の外国語の授業は、人に伝えようとする姿勢を育てているのだと思います。

世界とつながる子どもたち、シュタイナー学校どうしの交換留学

馬場…高等部には交換留学制度もありますね。

廣田…交換相手が見つければ、世界に300校ほどあるシュタイナー学校の高等部に留学可能です。ただし、授業態度や課題提出など、日々の学びにしっかりと取り組んでいることが前提です。ビザの関係で3カ月以内が基本ですが、生徒が自分で行きたい学校へ手紙を書き交換留学の相手を見つけます。ただ、交換相手とは基本的にお互いの家庭にホームステイするので、家庭での受け入れ態勢がないと難しいです。他の学校から申し込みがあつて交換留学をした生徒もいます。これまで、ドイツ、ラトビア、韓国、ブラジル、イスラエル、ハンガリーなどさまざまな言語の国から申し込みがありました。

馬場…英語圏以外の国でも留学できるんですね。

廣田…いえ、そう簡単にはできません。英語以外の言語の国に行く場合は、その言語で日常会話ができるぐらいに自主的に勉強した生徒のみ行くことを許可しています。また、条件が整わず交換留学ができない生徒でも、夏休みに海外のシュタイナー学校のサマーキャンプなどに参加することが可能です。

馬場…そうした場に参加すると英語も活用できますね。



廣田…とても刺激を受けて帰ってきます。海外へ進学するきっかけになる生徒もいます。

馬場…生徒の留学に対して、教員はどのように関わるのですか？

廣田…教員は留学を希望した生徒全てを送り出すわけではなく、それが本当にその生徒にとってプラスになるかを慎重に見極めます。留学よりも先にすべき課題がある生徒にはすめません。家族はホームステイの受け入れもしますし、留学がその生徒と家族の幸せにつながるのかということを考えます。不安がある場合は話しあい、自分が変わらなければいけないと知って、それでも留学したい生徒は変わる努力をします。そういう意味で留学は子どもと家族全員にとっての大きな成長の機会ですね。

「共感力」を育てる シュタイナー教育の外国語

馬場…最後に、シュタイナー教育の外国語の授業は「共感力」を育てると言われますが、2つ

の外国語を学ぶカリキュラムでこの力はどう育つのでしょうか？

田村…私は日本からアメリカへ行ったとき、2つの国それぞれの良い面・悪い面を感じました。けれどその後3つ目の国で暮らしたときに、良い悪いだけでなく、それぞれが違っていいんだ、という意識に変わりました。母語、英語、中国語という3つの言葉を学ぶことで、それぞれの違いを受け入れる体験ができています。それはこの学校の子どもたちが転入生を受け入れるときの力にもつながっていると感じます。

廣田…私は特にみんなで唱える詩と歌が「共感力」を育むことにつながっていると感じます。何度も繰り返す詩や歌を通して、言葉の響きや思い、意味が



伝わってくる。最初は意味がわからなくても唱え続けることでイメージが蓄積され、わからなかった単語も「あ、こういう意味かも」という感覚をつかめます。そのイメージする力が「共感力」につながると思います。

馬場…先ほど、外国語の授業では「伝える力」を大切にしているとおっしゃっていましたが、受け入れる力も育っているのだと思いました。シュタイナー教育の外国語の授業は、知識として学ぶのではなく、人間そのものを育てているんですね。

廣田…そうなんです。だから外国語のクラスにその言語が話せる子どもがいても全く問題ないんですね。



Masami Tamura 20年近く海外で過ごし、2014年に子どもをシュタイナー学園に通わせるため帰国。
田村 正美 2016年よりシュタイナー学園英語専科教員。2018年にクラス担任として引き受けたクラスは現在7年生。バンコク・日本国内でのシュタイナー学校教員養成講座を受講。

Seiko Hirota 高校時代から海外で過ごし、アムステルダム大学大学院卒業。国内で会社員を経て、教員免許を取得、同時に国内のシュタイナー学校教員養成講座を受講。2017年よりシュタイナー学園英語専科教員。2020年より高等部アドバイザー。

Aiko Baba 大学3年生から中国語を学びはじめ、日中間ビジネスで通訳・翻訳を経験後、出産を機にシュタイナー教育と出会う。国内のシュタイナー学校教員養成講座受講を経て、2019年よりシュタイナー学園で中国語専科を担当。

冬になると教室では石油ストーブをつけますが、時々授業の最中に、メロディーが鳴り出すことがある。すると子どもたちは、
「あ、ストーブも歌ってる」
「声が大きいなあ」

1年



1年

甘えん坊の1年生。
「お帰りのしたくをして、
自分のお席に座りましょう」
そう言ったあとに、
**担任のもとにやってきて、
お膝の上にちょこん。**



4年

「お花係やります！」
お花係4人がお花摘み。
花瓶にきれいにお花を活けて
嬉しそうにお仕事。
美しいものを大切にする
心が育っています。

1年が過ぎるころには、学校にもずいぶん慣れてきた1年生。「ねえねえ、先生」そう言いたかったけれど、出てきた言葉は

「ねえ、ねえ、ママ」
「あ、違った」

たくさんの時間を過ごすと、
こんなことがたびたび起こる。

シュタイナー学園 あるある小噺

こばなし

1年・4年編

日々めざましい成長をみせる
シュタイナー学園の子どもたち。
担任の先生に
成長段階で起きる
学園らしいエピソードを
おききました。



1年

外遊びから教室に
帰ってくる1年生。
**にこにこ顔で廊下を
スキップ。**

楽しいことが待っているのかな。



4年

体育着を忘れた人は見学だよ。
「ぼく絶対大丈夫」
なんで？
**「だってもう、服の下に
着てきたんだもん」**



20期卒業生 山口 葵 さん Aoi Yamaguchi

1年生から12年生まで、藤野の豊かな自然のなかで、シュタイナー教育を受けて育った山口葵さん。保育士として働きだして2年目になる現在、「12年間を学びきった、楽しみきったからこそ今がある」と話す葵さんに、シュタイナー学園の思い出を教えてくださいました。

※2022年6月の取材時の内容です。



▼シュタイナー教育との出会いを教えてください。

乳幼児期は府中に住んでいて、斎藤公子さんの「さくら・さくらんぼ保育」を取り入れている「わらしこ保育園」に通っていました。豊かな自然に恵まれた環境で、五感を使っているんなものを感じ取り、どんなこ、びしょ濡れになるほど身体を動かす遊びや生活体験を通して、自らに向き合い、生きる力を育むことを大切にしている園で、今はそこで保育士として働いています。小学校は、シュタイナー学園に子どもを通わせたいという両親の希望によつて、藤野に家族で移住し、シュタイナー教育に出会いました。

▼小学校生活はどうでしたか？

シュタイナー教育では小さいころは、子どもが安心できる「覆い」が大切だと言われていると思うのですが、ぬくもりを感じる色や素材で整えられた教室の中で、まさに「覆い」に守られている安心感があつた気がします。わたしは低学年のころ、登校時に母と離れられなくて泣いてしまう子どもだったので、毎朝担任の先生が玄関まで迎えにきてくれました。詩を唱えるときも、先生のお話を聞く朝の会の時間も、わたしが落ち着くよう

先生が膝の上に抱えてくれていて（笑）。担任の先生は8年生までずっと見てくださった栄大和先生という男性の先生でした。第二のお父さんのような存在で、今でも時々連絡をとっています。

▼印象に残っている授業はありますか？

算数の学びがとても楽しかったのをおぼえています。どんぐりを集めて10個ずつ袋に入れて足し算や引き算を学んだり、かけ算やわり算を魔法使いの魔法として教えてもらったり、算数が得意かといわれたら得意ではなかったと思うのですが、学びがとても楽しかった。クレヨンをもろうときのこと印象に残っています。シュタイナー学園では最初クレヨンを使って文字や数を書くのですが、最初は一色だけしか使いません。学びが進んでいくと、そのたびに新しい色のクレヨンをもらうのですが、布に包まれたクレヨンです。布に包まれたクレヨンをそつと先生が見せてくれて、一人ひとり渡してもらいます。宝物をもらうみたいで、「何色かな？」ってワクワクしていました。一色一色出会うことで、色の広がりやグラデーション、色と色が混ざり合って新しい色ができることを自然と感じていたと思います。最初から全部の

色を使わないことにも大きな意味があつたんだな、と今振り返り、気づくこともたくさんあります。

▼高学年になつてくると一般的な学校とのちがいを感じたこともあつたと思います。反発心や反抗心がありましたか？

わたしは反発、なかったと思うんです。学校が楽しかったし、8年生までわりとボーっとしていて（笑）。外部の学校に行きたいと思ったこともありませんでした。5年生からフルートを習いはじめたのですが、それは「お世話係」のお兄さんの影響です。シュタイナー学園では1年生の子に6年生のお姉さんお兄さんがついて、面倒をみってくれる「お世話係」という仕組みがあつて、わたしをみてくれたお兄さんは、学園のオーケストラでフルートを担当していました。すごく憧れていて、わたしもフルートをやりたい！と習い始め、学園のオーケストラにも入りました。あとは本を読むのが大好きだったので、学校の図書館や地域の図書館で毎週本を借りて読んでいましたね。8年生まではのんびり過ごしていたのですが、9年生からの高等部はすごく濃くて、楽しくて、その分感じることもたくさんある時間でした。

保育の道に進み、今は保育士として働きはじめて2年目になります。

▼保育の仕事はいかがですか？

人と向き合う仕事なので、大変なことはもちろんありますが、目の前にいる成長めざましい子どもたちと過ごすなかで、自分に正直に、自分自身にも向き合つて仕事をしていけたらと思っています。今後は障がいを持つ子どもたちと関わっていきたいという気持ちもありますし、保育士として働きながらも、自分自身を表現していききたい気持ちもあります。子どもたちと共に演劇を行えるような場に参加するなど、やりたいことがたくさんあるんです。

▼最後にシュタイナー教育で得たと思うものはなんですか？

人と比べなくていい。自分は自分でいい。他の何かや誰かを目指さなくていい。間違つたついでにんだよ、やりたいことをやってみなよ、そもそも間違いないんだよ…そんな眼差しのなかで、自分を認めて自分を好きでいられる力をもちつた気がします。

※シュタイナー学校の芸術教科で、言葉や音楽を身体を通して表現する運動芸術

▼高等部は実習も多く行われますが、印象に残っている実習はありますか？

福祉実習です。福祉実習でわたしは特別養護老人ホームに3週間行かせていただきました。実習中、仕事のほとんどは掃除をしたり、利用者のかたが過ごす場所の準備をしたり、環境を整えることだったんです。わたしは利用者のかたの補助をしたり、お話ししたりできるのかと思つたので、最初物足りないような気持ちもあつたのですが、3週間実習を続ける間に、気持ちよく過ごせるようには人が生きていくなかでとても大切なことなんだな、と気づくことができました。あの実習で学んだことは、今の保育の仕事をする上でもすごく大きな糧となつていると思います。

▼実習以外に高校生活のなかで印象に残っていることはありますか？

12年生で行う3大プロジェクト（12年劇、卒業プロジェクト、卒業オイリュ

トミー※）は全部印象に残っていますが、特に12年劇が心に残っています。劇というひとつのものを、クラスみんなで作る上げる。みんなが同じ方向を向くのはすごく難しいことですが、バラバラなままでは劇ができない。意見がちがつたり、ぶつかりするなかで、否定するのではなく、わかり合えな合おうと必死で向き合つた時間だったと思います。

▼保育士の道を選ばれましたが、進路はいつごろ考え始めたのでしょうか？

わたしは12年生になったときに、12年生の課題を楽しみきろう、と思つたんです。もちろんまわりには現役で大学進学を目指している人もいましたし、シュタイナー学園の課題と受験を両立している人もいました。でもわたしは12年間学んできた学園の、最後の1年の課題に全力で取り組みたいと思つたんです。全力で取り組みたいから、卒業後のことはその後考えようと思いました。そして最後の1年を全力で取り組むことにして本当に



園児と共に身体を動かす葵さん

よかつた、と今も思っています。あのときやりきつて得た達成感があつたからこそ、卒業後に自分と向き合うことができた。シュタイナー学園の学びを楽しみきつたことが、自分と向き合う力になったと思うんです。卒業後、自分が本当にやりたいことは何かと考えて、ひとつは自分を表現する演劇がしたいと思いました。もうひとつ、15歳の離れた弟がいることもあり、子どもと向き合う保育の仕事にも興味を持っていました。演劇の大学と保育の大学、両方受けて、結局

シュタイナー学園の未来へ

今年度も、皆様から温かなご支援を賜り、ありがとうございました。寄付者のご芳名を一部本誌にご紹介させていただくと共に、皆様のご温情に深く感謝申し上げます。

本学園は、これまでもシュタイナー教育を広めたいと願う多くのかたがたとの、連綿と続く関係に支えられて参りました。現在は、施設や教育活動の改善・拡大へ向けた議論がなされています。寄付の多様化により、金銭的貢献だけではなく、共同体に埋もれている人や情報・モノなどのリソースが循環され活かされるよう、未来を形成するコミュニティを力強いものにしていきたくと願っております。

今後とも末永くご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



シュタイナー学園理事 岩下千草

シュタイナー学園にご寄付いただき ありがとうございます！

シュタイナー学園は1987年に東京都心のビルの一室からスタートして以来、さまざまなかたのご支援をいただきながら35年以上もの歴史を築いてきました。

2022年には新たに寄付サイトも設立し、多くのかたがたにご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

藤野地区にある現在の校舎は、廃校となった小学校を保護者が中心になって改築を重ねて使っていますが、老朽化も激しく、大きな改築工事等も必要な状況となってきています。また、シュタイナー教育を世の中に広めていくための新しい活動なども始めていきたいと考えています。

今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



<https://www.steiner.ed.jp/donation/> 寄付専用ページ

2022年寄付者ご芳名 (寄付受付期間: 2022年1月~12月)

(五十音順、ご寄付時に、広報物への掲載可とされたかたを掲載しています。)

〈個人〉大野 建治 様 大野 司 様 大野 典子 様

小野 篤人 様 鹿俣 智裕 様 神田 悟 様 小林 千愛 様

他27名(延べ80回) 合計 2,586,000円

〈団体〉シュタイナー学園をさえる会 様

他1団体(延べ4回) 合計 6,295,068円

Information

4/21 (金) オープンスクール

5/20 (土) オープンデー

5/20 (土) 入学・転入見学会、高等部体験授業

6/3 (土) 入学・転入説明会、高等部体験授業

6/9 (金) お父さんのための座談会(オンライン)

6/17 (土) 大人のための体験授業(青山学院大学)

6/23 (金) オープンスクール

7/22 (土) 一学期祭(公開)、オープンスクール

7/23 (日) 夏のシュタイナー学校&移住ツアー

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で予告なく変更する可能性があります。
詳細はシュタイナー学園のHPをご確認ください。



シュタイナー学園 初等部・中等部

〒252-0187 神奈川県相模原市緑区名倉2805-1

TEL 042(686)6011 FAX 042(686)6030

シュタイナー学園 高等部

〒252-0183 神奈川県相模原市緑区吉野407

TEL 042(687)5510 FAX 042(687)5540

<https://www.steiner.ed.jp/>



@fujinosteinerjapan



@steiner_gakuen



@GakuenSteiner



シュタイナー学園通信

2023年3月 制作・発行 学校法人シュタイナー学園

表紙: ドイツの交換留学相手と

access

電車で JR 中央線「藤野駅」下車



お車で

中央自動車道「相模湖」ICより

